

◎所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本
国政府と南アフリカ共和国政府との間の条約

(略称) 南アフリカ共和国との租税(所得)条約

前文	第一条 人的範囲	平成九年三月七日	ケープ・タウンで署名
第二条 適用される租税	平成九年五月三十日	国会承認	
第三条 定義	平成九年十月三日	承認の閣議決定	
第四条 一方の締約国の居住者	平成九年十月六日	プレトリアで承認の通知交換	
第五条 恒久的施設	平成九年十一月八日	公布及び告示	
第六条 不動産から取得する所得	平成九年十一月五日	(条約第一三号及び外務省告示第四七四号) 効力発生	
第七条 恒久的施設の利得			
第八条 船舶又は航空機を国際運輸に運用することによつて取得する利得			
第九条 特殊関係企業に係る利得			

第十一条	配当	一九九九
第十二条	利子	二〇〇〇
第十三条	使用料	二〇〇三
第十四条	譲渡収益	二〇〇四
第十五条	自由職業の所得	二〇〇五
第十六条	勤務から生ずる報酬	二〇〇五
第十七条	役員の報酬	二〇〇六
第十八条	芸能人等の所得	二〇〇六
第十九条	政府の職務の遂行に係る報酬	二〇〇七
第二十条	学生又は事業修習者への給付	二〇〇八
第二十一条	その他の所得	二〇〇八
第二十二条	二重課税の排除の方法	二〇〇八
第二十三条	条約の特典を享受することを主たる目的として居住者となつた者への適用制限	二〇〇九
第二十四条	無差別取扱い	二〇〇九
第二十五条	不服申立て及び両国の権限のある当局間の協議	二〇一〇
第二十六条	情報の交換	二〇一
第二十七条	徴収共助	二〇一
第二十八条	外交官又は領事官の特権との関係	二〇一二
第二十九条	効力の発生	二〇一二
末文	有効期間	二〇一三
○議定書	日本側書簡	二〇一四
○議定書	南アフリカ側書簡	二〇一五
○所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国政府と南アフリカ共和国政府との間の条約に関する交換公文	日本側書簡	二〇一七
○所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国政府と南アフリカ共和国政府との間の条約に関する交換公文	南アフリカ側書簡	二〇一八

前文

所得に対する租税に関する一重課税の回避及び脱税の防止のための日本国政府と南アフリカ共和国政府との間の条約

BETWEEN THE GOVERNMENT OF JAPAN
AND THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF SOUTH AFRICA
FOR THE AVOIDANCE OF DOUBLE TAXATION
AND THE PREVENTION OF FISCAL EAVASION
WITH RESPECT TO TAXES ON INCOME

日本国政府及び南アフリカ共和国政府は、

所得に対する租税に関して、二重課税を回避し及び脱税を防止するための条約を締結する(以下を希望)。

次のとおり協定した。

第一条

人的範囲

適用され

る租税

の条約は、一方又は双方の締約国の居住者である者に適用する。

第二条

の条約が適用される現行の租税は、次のものとする。

(a) 日本国においては、

所得税

法人税

住民税

(以下「日本国の租税」と云ふ。)

(b) 南アフリカにおいては、

普通税

(i) 第二法人税

(以下「南アフリカの租税」と云ふ。)

この条約は、1に掲げる租税に加えて又はこれに代わっての条約の署名の日の後は一方の締約国又は

一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体によって課られる租税であつて1に掲げる租税と同一であるもの又は實質的に類似するもの(国税であるか地方税であるかを問わなき)に付して、適用する。両

日本国政府と南アフリカ共和国政府は、

The Government of Japan and the Government of the Republic of South Africa,

Desiring to conclude a Convention for the avoidance of double taxation and the prevention of fiscal evasion with respect to taxes on income,

Have agreed as follows:

Article 1

This Convention shall apply to persons who are residents of one or both of the Contracting States.

Article 2

1. The existing taxes to which this Convention shall apply are:

(a) in Japan:

(i) the income tax;

(ii) the corporation tax; and

(iii) the local inhabitant taxes
(hereinafter referred to as "Japanese tax");

(b) in South Africa:

(i) the normal tax; and

(ii) the secondary tax on companies
(hereinafter referred to as "South African tax").

2. The Convention shall apply also to any identical or substantially similar taxes, whether national or local, which are imposed by a Contracting State or a political subdivision or local authority thereof after the date of signature of the Convention in addition to, or in place

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一九九一

定義

締約国の権限のある当局は、それぞれの国の税法について行われた実質的な改正を、その改正後の遅延な期間内に、相互に通知す。

第二条

- この条約の適用上、文脈により別に解釈すべき場合を除くほか、

(a) 「日本国」とは、地理的意味で用いる場合には、日本国の租税に関する法令が施行されているすべての領域（領海を含む）及びその領域の外側に位置する水域で日本国が国際法に基づき管轄権を有し日本国の租税に関する法令が施行されているすべての水域（海底及びその下を含む）をさう。

(b) 「南アフリカ」とは、南アフリカ共和国をさう。地理的意味で用いる場合には、その領海並びに領海の外側の水域（大陸棚を含む）で南アフリカの法令及び国際法に基づいて南アフリカが主権的権利若しくは管轄権を行使するものである水域として指定されたもの又は今後指定されるものを含む。

(c) 「一方の締約国」及び「他方の締約国」とは、文脈により、日本国又は南アフリカをさう。

(d) 「者」には、個人、法人及び法人以外の団体で租税に関し課税単位として取り扱われるものを含む。

(e) 「法人」とは、法人格を有する団体又は租税に関し法人格を有する団体として取り扱われる団体をさう。

(f) 「一方の締約国の企業」及び「他方の締約国の企業」とは、それぞれ一方の締約国の居住者が営む企業及び他方の締約国の居住者が営む企業をさう。

- For the purposes of this Convention, unless the context otherwise requires:
 - the term "Japan", when used in a geographical sense, means all the territory of Japan, including its territorial sea, in which the laws relating to Japanese tax are in force, and all the area beyond its territorial sea, including the sea-bed and subsoil thereof, over which Japan has jurisdiction in accordance with international law and in which the laws relating to Japanese tax are in force;
 - the term "South Africa" means the Republic of South Africa and, when used in a geographical sense, includes the territorial sea thereof as well as any area outside the territorial sea, including the continental shelf, which has been or may hereafter be designated, under the laws of South Africa and in accordance with international law, as an area within which South Africa may exercise sovereign rights or jurisdiction;
 - the terms "a Contracting State" and "the other Contracting State" mean Japan or South Africa, as the context requires;
 - the term "person" includes an individual, a company and any other body of persons which is treated as an entity for tax purposes;
 - the term "company" means any body corporate or any entity which is treated as a body corporate for tax purposes;
 - the terms "enterprise of a Contracting State" and "enterprise of the other Contracting State" mean respectively an enterprise carried on by a resident of a Contracting State and an enterprise carried on by a resident of the other Contracting State;

- (g) 「国際運輸」とは、一方の締約国的企业が運用する船舶又は航空機による運送（地方の締約国内の地点の間においてのみ運用される船舶又は航空機による運送を除く）をいへ。
- (h) 「権限のある当局」とは、
- (i) 日本国については、大蔵大臣又は権限を与えられたその代理者をいへ。
 - (ii) 南アフリカについては、内国歳入庁長官又は権限を与えられたその代理者をいへ。
- (i) 「国民」とは、次の者をいへ。
- (i) 日本国については、日本国の国籍を有するすべての個人並びに日本国の法令に基いて設立された又は組織されたすべての法人及び法人格を有しないが日本国の租税に関する日本国の法令に基いて設立され又は組織された法人として取り扱われるすべての団体
 - (ii) 南アフリカについては、南アフリカの国籍を有するすべての個人並びに南アフリカにおいて施行されている法令によってその地位を与えられたすべての法人及び団体
- (j) 「租税」とは、文脈により、日本国の租税又は南アフリカの租税をいへ。
- 2 一方の締約国によるこの条約の適用に際しては、この条約において定義されていない用語は、文脈により別に解釈すべき場合を除くほか、この条約の適用を受ける租税に関する当該一方の締約国の法令において当該用語がその適用の時点で有する意義を有するものとする。当該一方の締約国が適用される税法における当該用語の意義は、当該一方の締約国他の法令における当該用語の意義に優先するものとする。
- 1 この条約の適用上、「一方の締約国の居住者」とは、次の者をいう。
- Article 4
1. For the purposes of this Convention, the term "resident of a Contracting State" means:

- (g) the term "international traffic" means any transport by a ship or aircraft operated by an enterprise of a Contracting State, except when the ship or aircraft is operated solely between places in the other Contracting State;
- (h) the term "competent authority" means:
- (i) in the case of Japan, the Minister of Finance or his authorized representative;
 - (ii) in the case of South Africa, the Commissioner for Inland Revenue or his authorized representative;
- (i) the term "nationals" means:
- (i) in the case of Japan, all individuals possessing the nationality of Japan and all juridical persons created or organized under the laws of Japan and all organizations without juridical personality treated for the purposes of Japanese tax as juridical persons created or organized under the laws of Japan;
 - (ii) in the case of South Africa, all individuals possessing the nationality of South Africa and all legal persons and associations deriving their status as such from the laws in force in South Africa; and
- (j) the term "tax" means Japanese tax or South African tax, as the context requires.

2. As regards the application of the Convention at any time by a Contracting State, any term not defined therein shall, unless the context otherwise requires, have the meaning which it has at that time under the laws of that Contracting State for the purposes of the taxes to which the Convention applies, any meaning under the applicable tax laws of that Contracting State prevailing over a meaning given to the term under other laws of that Contracting State.

第四条

1 この条約の適用上、「一方の締約国の居住者」とは、次の者をいう。

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一九九四

(a) 日本国に関しては、日本国の法令において、住所、居所、本店又は主たる事務所の所在地その他これらに類する基準により日本国において課税を受けるべきものとされる者

(b) 南アフリカに関しては、南アフリカの法令の下において南アフリカの通常の居住者である個人及び個人以外の者で南アフリカに実質的な管理の場所を有するもの

2 1の規定により双方の締約国の居住者に該当する個人については、次のとおりその地位を決定する。

2. Where by reason of the provisions of paragraph 1 an individual is a resident of both Contracting States, then his status shall be determined as follows:

- (a) in relation to Japan, any person who, under the laws of Japan, is liable to tax therein by reason of his domicile, residence, place of head or main office or any other criterion of a similar nature;
- (b) in relation to South Africa, any individual who, under the laws of South Africa, is ordinarily resident in South Africa and any person other than an individual which has its place of effective management in South Africa.

(a) 当該個人は、その使用する恒久的住居が所在する締約国の居住者とみなす。その使用する恒久的住居を双方の締約国内に有する場合には、当該個人は、その人的及び経済的関係がより密接な締約国（重要な利害関係の中心がある国）の居住者とみなす。

(b) その重要な利害関係の中心がある締約国を決定する事ができない場合又はその使用する恒久的住居をいずれの締約国内にも有しない場合には、当該個人は、その有する常用の住居が所在する締約国の居住者とみなす。

(c) その常用の住居を双方の締約国内に有する場合又はこれをいずれの締約国内にも有しない場合には、当該個人は、自己が国民である締約国の居住者とみなす。

(d) 当該個人が双方の締約国の国民である場合又はいずれの締約国の国民でもない場合には、両締約国の権限のある当局は、合意により当該事案を解決する。

3 1の規定により双方の締約国の居住者に該当する者で個人以外のものについては、両締約国の権限のあ

- る当局は、合意により、この条約の適用上その者が居住者であるとみなされる締約国を決定する。
3. Where by reason of the provisions of paragraph 1 a person other than an individual is a resident of both Contracting States, then the competent authorities of the Contracting States shall determine by mutual agreement the Contracting State of which that person shall be deemed to be a resident for the purposes of the Convention.

恒久的施設

第五条

- 1 「の条約の適用上、「恒久的施設」とは、事業を行つて一定の場所であつて企業がその事業の全部又は一部を行つている場所をいふ。
- 2 「恒久的施設」には、特に、次のものを含む。
- (a) 事業の管理の場所
 - (b) 支店
 - (c) 事務所
 - (d) 工場
 - (e) 作業場
 - (f) 鉱山、石油又は天然ガスの坑井、採石場その他天然資源を採取する場所
- 3 建築工事現場若しくは建設、据付け若しくは組立ての工事又はこれらに関連する監督活動によつては、十二箇月を超える期間存続する場合には、「恒久的施設」を構成するものとする。
- 4 1から3までの規定にかかわらず、「恒久的施設」には、次の(1)と(2)含まれるものとする。
- (a) 企業に属する物品又は商品の保管、展示又は引渡しのためにのみ施設を使用するもの。
 - (b) 企業に属する物品又は商品の在庫を保管、展示又は引渡しのためにのみ保有するもの。
 - (c) 企業に属する物品又は商品の在庫を他の企業による加工のためにのみ保有するもの。
 - (d) 企業のために物品若しくは商品を購入し又は情報を収集する目的のみを目的として、事業を行つて一定の場所を保有する」と。

Article 5

1. For the purposes of this Convention, the term "permanent establishment" means a fixed place of business through which the business of an enterprise is wholly or partly carried on.
2. The term "permanent establishment" includes especially:
- (a) a place of management;
 - (b) a branch;
 - (c) an office;
 - (d) a factory;
 - (e) a workshop; and
 - (f) a mine, an oil or gas well, a quarry or any other place of extraction of natural resources.
3. A building site, a construction, installation or assembly project or supervisory activities in connection therewith, constitute a permanent establishment only if such site, project or activities last more than twelve months.
4. Notwithstanding the provisions of the preceding paragraphs of this Article, the term "permanent establishment" shall be deemed not to include:
- (a) the use of facilities solely for the purpose of storage, display or delivery of goods or merchandise belonging to the enterprise;
 - (b) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of storage, display or delivery;
 - (c) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of processing by another enterprise;
 - (d) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of purchasing goods or merchandise or of collecting information, for the enterprise;

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一九九一

(e) 企業のためにその他の準備的又は補助的な性格の活動を行つたのみを目的として、事業を行う一定の場所を保有すること。

(f) (a)から(e)までに掲げる活動を組み合わせた活動を行つたのみを目的として、事業を行う一定の場所を保有する」と。ただし、当該一定の場所におけるこのようないく組合せによる活動の全体が準備的又は補助的な性格のものである場合に限る。

5 1及び2の規定にかかわらず、企業に代わつて行動する者（6の規定が適用される独立的地位を有する代理人を除く）が、一方の締約国内で、当該企業の名において契約を締結する権限を有し、かつ、この権限を反復して行使する場合には、当該企業は、その者が当該企業のために行つすべての活動について、当該一方の締約国内に「恒久的施設」を有するものとされる。ただし、その者の活動が4に掲げる活動事業を行う一定の場所で行われたとしても、4の規定により当該一定の場所が「恒久的施設」とされない活動（動）のみである場合は、この限りでない。

(e) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of carrying on, for the enterprise, any other activity of a preparatory or auxiliary character; and
(f) the maintenance of a fixed place of business solely for any combination of activities mentioned in sub-paragraphs (a) to (e) provided that the overall activity of the fixed place of business resulting from this combination is of a preparatory or auxiliary character.

6 企業は、通常の方法でその業務を行う仲立人、問屋その他の独立的地位を有する代理人を通じて一方の締約国内で事業活動を行つてゐるという理由のみでは、当該一方の締約国内に「恒久的施設」を有するものとされな。

5. Notwithstanding the provisions of paragraphs 1 and 2, where a person – other than an agent of an independent status to whom the provisions of paragraph 6 apply – is acting on behalf of an enterprise and has, and habitually exercises, in a Contracting State an authority to conclude contracts in the name of the enterprise, that enterprise shall be deemed to have a permanent establishment in that Contracting State in respect of any activities which that person undertakes for the enterprise, unless the activities of such person are limited to those mentioned in Paragraph 4 which, if exercised through a fixed place of business, would not make this fixed place of business a permanent establishment under the provisions of that paragraph.

7 一方の締約国の居住者である法人が、他方の締約国居住者である法人若しくは他方の締約国において事業（「恒久的施設」を通じて行われるものであるかないかを問わない。）を行う法人を支配し、又は、これらに支配されているところの事実のみによつては、いざれの一方の法人も、他方の法人の「恒久的施設」とはされな。

6. An enterprise shall not be deemed to have a permanent establishment in a Contracting State merely because it carries on business in that Contracting State through a broker, general commission agent or any other agent of an independent status, provided that such persons are acting in the ordinary course of their business.

7. The fact that a company which is a resident of a Contracting State controls or is controlled by a company which is a resident of the other Contracting State, or which carries on business in that other Contracting State (whether through a permanent establishment or otherwise), shall not of itself constitute either company a permanent establishment of the other.

第六条

Article 6

不動産から取得する所得

1 一方の締約国の居住者が他方の締約国内に存在する不動産から取得する所得（農業又は林業から生ずる所得を含む）に対しては、当該他方の締約国において租税を課することがである。

2 「不動産」の用語は、当該財産が存在する締約国の法令における不動産の意義を有するものとする。不

1. Income derived by a resident of a Contracting State from immovable property, including income from agriculture or forestry, situated in the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.
2. The term "immovable property" shall have the meaning

動産には、いかなる場合にも、これに附屬する財産、農業又は林業に用いられている家畜類及び設備、不動産に関する一般法の規定の適用がある権利、不動産用益権並びに鉱石、水その他の天然資源の採取又は採取の権利の対価として料金（金額が確定しているかないかを問わない。）を受領する権利を含む。船舶及び航空機は、不動産とはみなさない。

3 1の規定は、不動産の直接使用、賃貸その他のすべての形式による使用から生ずる所得について適用する。

4 1及び3の規定は、企業の不動産から生ずる所得及び独立の人的役務を提供するために使用される不動産から生ずる所得についても、適用する。

第七条

恒久的施設の利得

1 一方の締約国の企業の利得に対しては、その企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該地方の締約国内において事業を行わない限り、当該一方の締約国においてのみ租税を課すものとする。
一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内において事業を行う場合には、その企業の利得のうち当該恒久的施設に帰せられる部分に対してのみ、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 3の規定に従うことを条件として、一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内において事業を行う場合には、当該恒久的施設が、同一又は類似の活動を行ひ、かつ、当該恒久的施設を有する企業と全く独立の立場で取引を行う別個のかつ分離した企業であるとしたならば当該恒久的施設が取得したとみられる利得が、各締約国において当該恒久的施設に帰せられるものとする。

3 恒久的施設の利得を決定するに当たっては、経営費及び一般管理費を含む費用で当該恒久的施設のために生じたものは、当該恒久的施設が存在する締約国内において生じたものであるか他の場所において生じたものであるかを問わず、損金に算入する」とを認められる。

which it has under the laws of the Contracting State in which the property in question is situated. The term shall in any case include property accessory to immovable property, livestock and equipment used in agriculture and forestry, rights to which the provisions of general law respecting immovable property apply, usufruct of immovable property and rights to variable or fixed payments as consideration for the working of, or the right to work, mineral deposits, sources and other natural resources, ships and aircraft shall not be regarded as immovable property.

3. The provisions of paragraph 1 shall apply to income derived from the direct use, letting, or use in any other form of immovable property.

4. The provisions of paragraphs 1 and 3 shall also apply to the income from immovable property of an enterprise and to income from immovable property used for the performance of independent personal services.

Article 7

1. The profits of an enterprise of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State unless the enterprise carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein. If the enterprise carries on business as aforesaid, the profits of the enterprise may be taxed in the other Contracting State but only so much of them as is attributable to that permanent establishment.

2. Subject to the provisions of paragraph 3, where an enterprise of a Contracting State carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein, there shall in each Contracting State be attributed to that permanent establishment the profits which it might be expected to make if it were a distinct and separate enterprise engaged in the same or similar activities under the same or similar conditions and dealing wholly independently with the enterprise of which it is a permanent establishment.

3. In determining the profits of a permanent establishment, there shall be allowed as deductions expenses which are incurred for the purposes of the permanent establishment, including executive and general administrative expenses so incurred, whether in the Contracting State in which the permanent establishment is situated or elsewhere.

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一九九八

4-2の規定は、恒久的施設に帰せられるべき利得を企業の利得の総額の当該企業の各構成部分への配分によつて決定する慣行が一方の締約国にある場合には、租税を課せられるべき利得をその慣行によつてある組分の方法によつて当該一方の締約国が決定するのを妨げるものではない。ただし、用いられる配分の方法は、当該組分の方法によつて得た結果がこの条に定める原則に適合するようならなければならぬ。

5 恒久的施設が企業のために物品又は商品の単なる購入を行つたと理由としては、かかる利得も、当該恒久的施設に帰せられないとはな。

6 1からまでの規定の適用上、恒久的施設に帰せられる利得は、毎年同一の方法によつて決定する。ただし、別の方針を用いることにより正当な理由がある場合は、の限りでな。

7 他の条で別個に取り扱われている種類の所得が企業の利得に含まれる場合には、当該他の条の規定は、この条の規定によつて影響されるとはな。

第八条

1 一方の締約国においてのみ租税を課する方がである。該一方の締約国においてのみ租税を課する方がである。

船舶又は航空機又は
航空機を
国際運輸
に運用す
ることに
よつて取
得する利
得

3 1及び2の規定は、共同計算、共同経営又は国際経営共同体に参加してうなづくことで取得する利得についても、適用する。

第九条

1(a) 一方の締約国が他方の締約国企業の経営、支配若しくは資本に直接若しくは間接に参加して

4. In so far as it has been customary in a Contracting State to determine the profits to be attributed to a permanent establishment on the basis of an apportionment of the total profits of the enterprise to its various parts, nothing in paragraph 2 shall preclude that Contracting State from determining the profits to be taxed by such an apportionment as may be customary; the method of apportionment adopted shall, however, be such that the result shall be in accordance with the principles contained in this Article.

5. No profits shall be attributed to a permanent establishment by reason of the mere purchase by that permanent establishment of goods or merchandise for the enterprise.

6. For the purposes of the provisions of the preceding paragraphs of this Article, the profits to be attributed to the permanent establishment shall be determined by the same method year by year unless there is good and sufficient reason to the contrary.

7. Where profits include items of income which are dealt with separately in other Articles of this Convention, then the provisions of those Articles shall not be affected by the provisions of this Article.

Article 8

1. Profits from the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State.

2. In respect of the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise of a Contracting State, that enterprise, if an enterprise of South Africa, shall be exempt from the enterprise tax in Japan, and, if an enterprise of Japan, shall be exempt from any tax similar to the enterprise tax in Japan which may hereafter be imposed in South Africa.

3. The provisions of the preceding paragraphs of this Article shall also apply to profits from the participation in a pool, a joint business or an international operating agency.

Article 9

1. Where

する場合又は

資本に直接若しくは間接に参加している場合

- (b) 同一の者が一方の締約国の企業及び他方の締約国の企業の経営、支配若しくは資本に直接若しくは間接に参加している場合

であつて、そのいすれの場合においても、商業上又は資金上の関係において、双方の企業の間に、独立の企業の間に設けられる条件と異なる条件が設けられ又は課われらるゝ時は、その条件がないとしたならば一方の企業の利得となつたとみられる利得であつてその条件のために当該一方の企業の利得とならなかつたものに対するは、これを当該一方の企業の利得に算入して租税を課すやうがである。

2 一方の締約国において租税を課された当該一方の締約国の企業の利得を他方の締約国が一の規定により当該他方の締約国の企業の利得に算入して租税を課する場合において、両締約国の権限のある当局が、協議の上、その算入された利得の全部又は一部が、双方の企業の間に設けられた条件が独立の企業の間に設けられたやうな条件であったとしたならば当該他方の締約国の企業の利得となつたとみられる利得であることに同意するときは、当該一方の締約国は、その合意された利得に対して当該一方の締約国において課された租税の額につき適当な調整を行ふ。この調整に当たりては、この条約の他の規定に妥当な考慮を払へ。

- (a) an enterprise of a Contracting State participates directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of the other Contracting State, or the same persons participate directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of a Contracting State and an enterprise of the other Contracting State,
- (b) where a Contracting State includes, in accordance with the provisions of paragraph 1, in the profits of an enterprise of that Contracting State - and taxes accordingly - profits on which an enterprise of the other Contracting State has been charged to tax in that other Contracting State and where the competent authorities of the Contracting States agree, upon consultation, that all or part of the profits so included are profits which would have accrued to the enterprise of the first-mentioned Contracting State if the conditions made between the two enterprises had been those which would have been made between independent enterprises, then that other Contracting State shall make an appropriate adjustment to the amount of the tax charged therein on those agreed profits. In determining such adjustment, due regard shall be had to the other provisions of this Convention.

Article 10

1. Dividends paid by a company which is a resident of a Contracting State to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. However, such dividends may also be taxed in the Contracting State of which the company paying the dividends is a resident and according to the laws of that Contracting State, but if the recipient is the beneficial owner of the dividends, the tax so charged shall not exceed:

- (a) 5 per cent of the gross amount of the dividends

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一一〇〇〇

を支払う法人の議決権のある株式の少なくとも十五パーセントを所有する法人である場合には、当該配当の額の五パーセント

(b) その他のすべての場合には、当該配当の額の十五パーセント。

この規定は、当該配当を支払う法人のその配当に充てられる利得に対する課税に影響を及ぼすものではない。

3 この条において、「配当」とは、株式その他の利得の分配を受ける権利（信用に係る債権を除く）から生ずる所得及びその他の持分から生ずる所得であつて分配を行つ法人が居住者となるれる締約国の法令上株式から生ずる所得と同様に取り扱われるものをいふ。

4

1及び2の規定は、一方の締約国の居住者である配当の受益者が、当該配当を支払う法人が居住者となるれる他方の締約国において当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行ひ又は当該他方の締約国内にある固定的施設を通じて独立の個人的役務を提供する場合において、当該配当の支払の基因となつた株式その他の持分が当該恒久的施設又は当該固定的施設と実質的な関連を有するものであるときは、適用しない。この場合には、第七条又は第十四条の規定を適用する。

5

一方の締約国の居住者である法人が他方の締約国から利得又は所得を取得する場合には、当該他方の締約国は、当該法人の支払う配当及び当該法人の留保所得について、これらの配当及び留保所得の全部又は一部が当該他方の締約国内において生じた利得又は所得から成るに拘らずにあっても、当該配当（当該他方の締約国）の居住者に支払われる配当及び配当の支払の基因となつた株式その他の持分が当該他方の締約国内にある恒久的施設と実質的な関連を有するものである場合の配当（除く）に対するかかる租税も課すことかぎりである。

if the beneficial owner is a company which owns at least 25 per cent of the voting shares of the company paying the dividends during the period of six months immediately before the end of the accounting period for which the distribution of profits takes place;

(b) 15 per cent of the gross amount of the dividends in all other cases.

The provisions of this paragraph shall not affect the taxation of the company in respect of the profits out of which the dividends are paid.

3. The term "dividends" as used in this Article means income from shares or other rights, not being debt-claims, participating in profits, as well as income from other corporate rights which is subjected to the same taxation treatment as income from shares by the laws of the Contracting State of which the company making the distribution is a resident.

4. The provisions of paragraphs 1 and 2 shall not apply if the beneficial owner of the dividends, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State of which the company paying the dividends is a resident, through a permanent establishment situated therein, or performs in that other Contracting State independent personal services from a fixed base situated therein, and the holding in respect of which the dividends are paid is effectively connected with such permanent establishment or fixed base. In such case the provisions of Article 7 or Article 14, as the case may be, shall apply.

5. Where a company which is a resident of a Contracting State derives profits or income from the other Contracting State, that other Contracting State may not impose any tax on the dividends paid by the company, except in so far as such dividends are paid to a resident of that other Contracting State or in so far as the holding in respect of which the dividends are paid is effectively connected with a permanent establishment or a fixed base situated in that other Contracting State, nor subject the company's undistributed profits to a tax on the company's undistributed profits, even if the dividends paid or the undistributed profits consist wholly or partly of profits or income arising in that other Contracting State.

1 一方の締約国内において生じ、他方の締約国の居住者に支払われる利子に対するは、当該他方の締約国において租税を課する」とがである。

2 1の利子に対しては、当該利子が生じた締約国においても、当該締約国の法令に従つて租税を課する」とができる。その租税の額は、当該利子の受領者が当該利子の受益者である場合には、当該利子の額の十ペーセントを超えないものとする。

3 2の規定にかかわらず、一方の締約国内において生ずる利子であつて、他方の締約国の中、他方の締約国が全面的に所有する金融機関が取得するもの及び他方の締約国、他方の締約国の中、他方の締約国が全面的に所有する金融機関が保証された債権、他方の締約国が中央銀行若しくは他方の締約国の中、他方の締約国が全面的に所有する金融機関によつて保証された債権、これらによつて保険の引受けが行われた債権又はこれらによる間接融資に係る債権に関する当該他方の締約国の居住者が取得するものについては、当該一方の締約国において租税を免除する。

1. Interest arising in a Contracting State and paid to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. However, such interest may also be taxed in the Contracting State in which it arises and according to the laws of that Contracting State, but if the recipient is the beneficial owner of the interest, the tax so charged shall not exceed 10 per cent of the gross amount of the interest.

3. Notwithstanding the provisions of paragraph 2, interest arising in a Contracting State and derived by the Government of the other Contracting State, a Political subdivision or local authority thereof, the Central Bank of that other Contracting State or any financial institution wholly owned by that Government, or by any resident of the other Contracting State with respect to debt-claims guaranteed, insured or indirectly financed by the Government of that other Contracting State, a political subdivision or local authority thereof, the Central Bank of that other Contracting State or any financial institution wholly owned by that Government shall be exempt from tax in the first-mentioned Contracting State.

4. 3の規定の適用上、「中央銀行」及び「政府が全面的に所有する金融機関」とは、次のものを含む。

(a) 日本国には、

- (i) 日本銀行
- (ii) 日本輸出入銀行
- (iii) 海外経済協力基金
- (iv) 国際協力事業団
- (v) 日本国政府が資本の全部を所有するその他の金融機関で両締約国の中、他方の締約国が隨時合意するもの

(b) 南アフリカについては、

- (i) 南アフリカ準備銀行

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一一〇〇一

(ii) 南アフリカ政府が資本の全部を所有するその他の金融機関で両締約国の政府が隨時合意するもの

5 この条において、「利子」とは、すべての種類の信用に係る債権（担保の有無及び債務者の利得の分配を受ける権利の有無を問わない）から生じた所得、特に、公債、債券又は社債から生じた所得（公債、債券又は社債の割増金及び賞金を含む。）をいい。

6 1から3までの規定は、一方の締約国の居住者である利子の受益者が、当該利子の生じた他方の締約国において、当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行い又は当該他方の締約国内にある固定的施設を通じて独立の人的役務を提供する場合において、当該利子の支払の基因となつた債権が当該恒久的施設又は当該固定的施設と実質的な関連を有するものであるときは、適用しない。この場合には、第七条又は第十四条の規定を適用する。

7 利子は、その支払者が一方の締約国又は一方の締約国の地方政府、地方公共団体若しくは居住者である場合には、当該一方の締約国内において生じたものとする。ただし、利子の支払者（締約国の居住者であるかないかを問わない）が一方の締約国内に恒久的施設又は固定的施設を有する場合において、当該利子の支払の基因となつた債務が当該恒久的施設又は固定的施設によって生じ、かつ、当該利子が当該恒久的施設又は固定的施設によって負担されるものであるときは、当該利子は、当該恒久的施設又は固定的施設の存在する当該一方の締約国内において生じたるものとされる。

5. The term "interest" as used in this Article means income from debt-claims of every kind, whether or not secured by mortgage and whether or not carrying a right to participate in the debtor's profits, and in particular, income from government securities and income from bonds or debentures, including premiums and prizes attaching to such securities, bonds or debentures.

6. The provisions of paragraphs 1, 2 and 3 shall not apply if the beneficial owner of the interest, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State in which the interest arises, through a permanent establishment situated therein, or performs in that other Contracting State independent personal services from a fixed base situated therein, and the debt-claim in respect of which the interest is paid is effectively connected with such permanent establishment or fixed base. In such case the provisions of Article 7 or Article 14, as the case may be, shall apply.

7. Interest shall be deemed to arise in a Contracting State when the payer is that Contracting State itself, a political subdivision or local authority thereof or a resident of that Contracting State. Where, however, the person paying the interest, whether he is a resident of a Contracting State or not, has in a Contracting State a permanent establishment or a fixed base in connection with which the indebtedness on which the interest is paid was incurred, and such interest is borne by such permanent establishment or fixed base, then such interest shall be deemed to arise in the Contracting State in which the permanent establishment or fixed base is situated.

8. Where, by reason of a special relationship between the payer and the beneficial owner or between both of them and some other person, the amount of the interest, having regard to the debt-claim for which it is paid, exceeds the amount which would have been agreed upon by the payer and the beneficial owner in the absence of such relationship, the Provisions of this Article shall apply only to the last-mentioned amount. In such case, the excess part of the payments shall remain taxable according to the laws of each Contracting State, due regard being had to the other provisions of this Convention.

使 用 料

第十一条

- 1 一方の締約国内において生じ、他方の締約国の居住者に支払われる使用料に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。
- 2 1の使用料に対しては、当該使用料が生じた締約国においても、当該締約国の法令に従つて租税を課さることができる。その租税の額は、当該使用料の受益者が当該使用料の受益者である場合には、当該使用料の額の十パーセントを超えないものとする。
- 3 この条において、「使用料」とは、文学上、芸術上若しくは学術上の著作物（ソフトウェア、映画フィルム及びラジオ放送用又はテレビジョン放送用のフィルム又はテープを含む）の著作権、特許権、商標権、意匠権、模型、図面、秘密方式若しくは秘密工程の使用若しくは使用的権利の対価として、産業上、商業上若しくは学術上の設備の使用若しくは使用的権利の対価として、又は産業上、商業上若しくは学術上の経験に関する情報の対価として受領するすべての種類の支払金及び船舶又は航空機の裸用船契約に基づいて受領する料金（第八条で取り扱うものを除く）を指す。
- 4 使用料は、その支払者が一方の締約国又は一方の締約国地方政府、地方公共団体若しくは居住者である場合には、当該一方の締約国内において生じたものとされる。ただし、使用料の支払者が（締約国の居住者であるかないかを問わなない）が一方の締約国内に恒久的施設又は固定的施設を有する場合において、当該使用料を支払う債務が当該恒久的施設又は固定的施設について生じ、かつ、当該使用料が当該恒久的施設又は固定的施設によって負担されるものであるときは、当該使用料は、当該恒久的施設又は固定的施設の存在する当該一方の締約国内において生じたものとされる。
- 5 1、2及び4の規定は、文学上若しくは学術上の著作物（ソフトウェア、映画フィルム及びラジオ放送用又はテレビジョン放送用のフィルム又はテープを含む）の著作権、特許権、商標権、意匠権、模型、図面、秘密方式又は秘密工程の譲渡から生ずる収入についても、同様に適用する。ただし、その収入に係る収益について次条との規定が適用される場合は、この限りでない。
- 6 1、2及び5の規定は、一方の締約国の居住者である使用料又は収入の受益者が、当該使用料又は収入

Article 12

1. Royalties arising in a Contracting State and paid to a resident of the other Contracting State may be taxed in the laws of that Contracting State, but if the recipient is the beneficial owner of the royalties, the tax so charged shall not exceed 10 per cent of the gross amount of the royalties.
2. However, such royalties may also be taxed in the Contracting State in which they arise and according to the laws of that Contracting State, but if the recipient is the beneficial owner of the royalties, the tax so charged shall not exceed 10 per cent of the gross amount of the royalties.
3. The term "royalties" as used in this Article means payments of any kind received as a consideration for the use of, or the right to use, any copyright of literary, artistic or scientific work including software, cinematograph films and films or tapes for radio or television broadcasting, any patent, trade mark, or design or model, plan, secret formula or process, or for the use of, or the right to use, industrial, commercial or scientific equipment, or for information concerning industrial, commercial or scientific experience, as well as receipts from a bare boat charter of ships or aircraft (other than those dealt with in Article 8).
4. Royalties shall be deemed to arise in a Contracting State when the payer is that Contracting State itself, a political subdivision or local authority thereof or a resident of that Contracting State. Where, however, the person paying the royalties, whether he is a resident of a Contracting State or not, has in a Contracting State a permanent establishment or a fixed base in connection with which the liability to pay the royalties was incurred, and such royalties are borne by such permanent establishment or fixed base, then such royalties shall be deemed to arise in the Contracting State in which the permanent establishment or fixed base is situated.
5. The provisions of paragraphs 1, 2 and 4 of this Article shall likewise apply to proceeds arising from the alienation of any copyright of literary, artistic or scientific work including software, cinematograph films and films or tapes for radio or television broadcasting, any patent, trade mark, design or model, plan, or secret formula or process, except when the provisions of paragraph 2 of Article 13 are applicable to the gains to be derived from such proceeds.
6. The provisions of paragraphs 1, 2 and 5 shall

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一一〇〇四

の生じた他方の締約国において当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行ひ又は当該他方の締約国内にある固定的施設を通じて独立の個人的役務を提供する場合において、当該使用料又は収入の支払の基団となつた権利又は財産が当該恒久的施設又は当該固定的施設と実質的な関連を有するものであるときは、適用しない。この場合には、第七条又は第十四条の規定を適用する。

7 使用料又は収入の支払の基団となつた使用、権利又は情報について考慮した場合において、使用料又は収入の支払者と受益者との間又はその双方と第三者との間の特別の関係によつて、当該使用料又は収入の額が、その関係がないとしたならば支払者及び受益者が合意したとみられる額を超えるときば、りの条の規定は、その合意したとみられる額についてのみ適用する。この場合には、支払われた額のべや当該超過分に対し、この条約の他の規定に妥当な考慮を払つた上、各締約国の法令に従つて租税を課するといふが、である。

第十二条

1 一方の締約国の居住者が第六条に規定する不動産で他方の締約国内に存在するものの譲渡によって取得する収益に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 一方の締約国の企業が他方の締約国内に有する恒久的施設の事業用資産の一部を成す財産（不動産を除く）の譲渡又は一方の締約国の居住者が独立の個人的役務を提供するため他方の締約国内においてその用に供している固定的施設に係る財産（不動産を除く）の譲渡から生ずる収益（単独に若しくは企業全体として行われる当該恒久的施設の譲渡又は当該固定的施設の譲渡から生ずる収益を含む）に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができない。

not apply if the beneficial owner of the royalties or proceeds, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State in which the royalties or proceeds arise, through a permanent establishment situated therein, or performs in that other Contracting State independent personal services from a fixed base situated therein, and the right or property in respect of which the royalties or proceeds are paid is effectively connected with such permanent establishment or fixed base. In such case the provisions of Article 7 or Article 14, as the case may be, shall apply.

7. Where, by reason of a special relationship between the payer and the beneficial owner or between both of them and some other person, the amount of the royalties or proceeds, having regard to the use, right or information for which they are paid, exceeds the amount which would have been agreed upon by the payer and the beneficial owner in the absence of such relationship, the provisions of this Article shall apply only to the last-mentioned amount. In such case, the excess part of the payments shall remain taxable according to the laws of each Contracting State, due regard being had to the other provisions of this Convention.

Article 13

1. Gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of immovable property referred to in Article 6 and situated in the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. Gains from the alienation of any property, other than immovable property, forming part of the business property of a permanent establishment which an enterprise of a Contracting State has in the other Contracting State or of any property, other than immovable property, pertaining to a fixed base available to a resident of a Contracting State in the other Contracting State for the purpose of performing independent personal services, including such gains from the alienation of such a permanent establishment (alone or together with the whole enterprise) or of such fixed base, may be taxed in that other Contracting State.

3. Gains derived by an enterprise of a Contracting State from the alienation of ships or aircraft operated in international traffic and any property, other than immovable property, pertaining to the operation of such ships or aircraft shall be taxable only in that Contracting State.

自由職業の所得

4 一方の締約国の居住者が前条及びこの条の1から3までに規定する財産以外の財産の譲渡による取
得する収益であつて他方の締約国内において生ずるものに對しては、当該他方の締約国において租税を課
するるいかでない。

第十四条

1 一方の締約国の居住者が自由職業その他の独立の性格を有する活動について取得する所得に對しては、
次の(a)又は(b)に該当する場合を除くほか、当該一方の締約国においてのみ租税を課する事ができる。

(a) その者が自己の活動を行うため通常その用に供している固定的施設を他方の締約国内に有する場合

(b) その者が当該暦年を通じて合計百八十三日以上の期間当該他方の締約国内に滞在する場合

その者がそのような固定的施設を有する場合又は前記の期間当該他方の締約国内に滞在する場合には、
当該所得に對しては、当該固定的施設に帰せられる部分又は前記の期間を通じ当該他方の締約国内におい
て取得した部分についてのみ、当該他方の締約国において租税を課する事ができる。

2 「自由職業」には、特に「学術上」、「文学上」、「芸術」及び「教育上の独立の活動並びに医師、弁護士、技術
士、建築士、歯科医師及び公認会計士の独立の活動を含む。

第十五条

勤務から生ずる報酬

1 次条及び第十八条の規定が適用される場合を除くほか、一方の締約国の居住者がその勤務について取得
する給料、賃金その他これらに類する報酬に對しては、勤務が他方の締約国内において行われない限り、
当該一方の締約国においてのみ租税を課する事ができる。勤務が他方の締約国内において行われる場合
には、当該勤務から生ずる報酬に對しては、当該他方の締約国において租税を課する事ができる。

2 1の規定にかかわらず、一方の締約国の居住者が他方の締約国内において行う勤務について取得する報
酬に對しては、次の(a)から(c)までに掲げるることを条件として、当該一方の締約国においてのみ租税を課す
事ができる。

Article 14

1. Income derived by a resident of a Contracting State in respect of professional services or other activities of an independent character shall be taxable only in that Contracting State unless:

- he has a fixed base regularly available to him in the other Contracting State for the purpose of performing his activities; or
- he is present in that other Contracting State for a period or periods amounting to or exceeding in the aggregate 183 days in the calendar year concerned.

If he has such a fixed base or remains in that other Contracting State for the aforesaid period or periods, the income may be taxed in that other Contracting State but only so much of it as is attributable to that fixed base or is derived in that other Contracting State during the aforesaid period or periods.

2. The term "professional services" includes especially independent scientific, literary, artistic, educational or teaching activities as well as the independent activities of physicians, lawyers, engineers, architects, dentists and accountants.

Article 15

1. Subject to the provisions of Articles 16 and 18, salaries, wages and other similar remuneration derived by a resident of a Contracting State in respect of an employment shall be taxable only in that Contracting State unless the employment is exercised in the other Contracting State. If the employment is so exercised, such remuneration as is derived therefrom may be taxed in that other Contracting State.

- Notwithstanding the provisions of paragraph 1, remuneration derived by a resident of a Contracting State in respect of an employment exercised in the other

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

1100+

ムリヒガドモル。

Contracting State shall be taxable only in the first-mentioned Contracting State if:

- (a) 報酬の受領者が当該暦年を通じて合計百八十三日を超えない期間当該他方の締約国内に滞在する」と。

- (a) the recipient is present in that other Contracting State for a period or periods not exceeding in the aggregate 183 days in the calendar year concerned, and

- (b) 報酬が当該他方の締約国の居住者でない雇用者又は代理人に代わる者が支払われるものである」と。

- (b) the remuneration is paid by, or on behalf of, an employer who is not a resident of that other Contracting State, and

- (c) the remuneration is not borne by a permanent establishment or a fixed base which the employer has in that other Contracting State.

3. 1及び2の規定にかかわらず、一方の締約国の企業が国際運輸に運用する船舶又は航空機内において行われる勤務に係る報酬に対しては、当該一方の締約国において租税を課すことがやむを得ない。

3. Notwithstanding the provisions of the preceding paragraphs of this Article, remuneration derived in respect of an employment exercised aboard a ship or aircraft operated in international traffic by an enterprise of a Contracting State may be taxed in that Contracting State.

第十六条

役員の報酬

芸能人等の所得

1. 第七条、第十四条及び第十五条の規定にかかわらず、一方の締約国の居住者である個人が演劇、映画、ラジオ若しくはテレビジョンの俳優、音楽家その他の芸能人又は運動家として他方の締約国内で行う個人的活動によって取得する所得に対しては、当該他方の締約国において租税を課すことがやむを得ない。

1. Directors' fees and other similar payments derived by a resident of a Contracting State in his capacity as a member of the board of directors of a company which is a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

Article 17

2. 一方の締約国内で行う芸能人又は運動家としての個人的活動に関する所得が当該芸能人又は運動家以外の他方の締約国の居住者である者に帰属する場合には、当該所得に対しては、第七条、第十四条及び第十五条の規定にかかわらず、当該芸能人又は運動家の活動を行わる当該一方の締約国において租税を課すことがやむを得ない」とがやむを得ない。

2. Where income in respect of personal activities exercised in a Contracting State by an entertainer or a sportsman in his capacity as such accrues not to the entertainer or sportsman himself but to another person who is a resident of the other Contracting State, that income may, notwithstanding the provisions of Articles 7, 14 and 15, be taxed in the Contracting State in which the activities of the entertainer or sportsman are exercised.

政府の職務の遂行に係る報酬

3. 1及び2の規定にかかわらず、一方の締約国の居住者が他方の締約国内で行われる1及び2に規定する

活動から取得する所得について、当該所得が両締約国の政府間で合意された文化交流のための特別の計画に基づく活動から生ずる場合は、当該他方の締約国において租税を免除する。

第十八条

1. (a) 政府の職務の遂行として一方の締約国又は一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体に対し提供

される役務につき、個人に対し当該一方の締約国又は当該一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体によって支払われる給料、賃金その他これらに類する報酬（退職年金を除く。）に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課すことがである。

(b) もうとも、当該役務が他方の締約国内において提供され、かつ、当該個人が次の(i)又は(ii)に該当する当該他方の締約国の居住者である場合には、その給料、賃金その他これらに類する報酬に対しては、当該他方の締約国においてのみ租税を課することができる。

(i) 当該他方の締約国の国民

(ii) 専ら当該役務を提供するため当該他方の締約国の居住者となった者でないもの

2. (a) 一方の締約国又は一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体に対し提供される役務について、個人に対し、当該一方の締約国若しくは当該一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体によって支払われ、又は当該一方の締約国若しくは当該一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体が拠出した基金から支払われる退職年金については、当該一方の締約国においてのみ租税を課すことがである。

(b) もうとも、当該個人が他方の締約国の居住者であり、かつ、当該他方の締約国の国民である場合には、その退職年金に対しては、当該他方の締約国においてのみ租税を課することができる。

3. 一方の締約国又は一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体の行う事業に関連して提供される役務

3. Notwithstanding the provisions of paragraphs 1 and 2, income derived by a resident of a Contracting State from activities exercised in the other Contracting State, as envisaged in the said Paragraphs, shall be exempt from tax in that other Contracting State if such income is derived from such activities pursuant to a special programme for cultural exchange agreed upon between the Governments of the Contracting States.

Article 18

1. (a) Salaries, wages and other similar remuneration, other than a pension, paid by a Contracting State or a political subdivision or local authority thereof to an individual in respect of services rendered to that Contracting State or a political subdivision or local authority thereof, in the discharge of functions of a governmental nature, shall be taxable only in that Contracting State.

(b) However, such salaries, wages and other similar remuneration shall be taxable only in the other Contracting State if the services are rendered in that other Contracting State and the individual is a resident of that other Contracting State who:

(i) is a national of that other Contracting State; or

(ii) did not become a resident of that other Contracting State solely for the purpose of rendering the services.

2. (a) Any pension paid by, or out of funds to which contributions are made by, a Contracting State or a political subdivision or local authority thereof to an individual in respect of services rendered to that Contracting State or a political subdivision or local authority thereof shall be taxable only in that Contracting State.

(b) However, such pension shall be taxable only in the other Contracting State if the individual is a resident of, and a national of, that other Contracting State.

3. The provisions of Articles 15, 16, 17 and 20 shall apply to salaries, wages and other similar remuneration,

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一一〇六

につき支払われる給料、賃金その他のいかに類する報酬及び退職年金については、第十五条からの前条までに規定及び第二十条の規定を適用する。

第十九条

専ら教育又は訓練を受けるため一方の締約国内に滞在する学生又は事業修習者であつて、現に他方の締約国の居住者であるもの又はその直前に他方の締約国の居住者であつたものがその生計、教育又は訓練のために当該一方の締約国外から受け取る給付については、当該一方の締約国の租税を免除する。

学生又は
事業修習
者への給
付

その他の
所得

第二十条

一方の締約国の居住者の所得（源泉地を問わない）で前各条に規定がないものに対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課すことがである。

1. Items of income of a resident of a Contracting State, wherever arising, not dealt with in the foregoing Articles of this Convention shall be taxable only in that Contracting State.

2. The provisions of paragraph 1 shall not apply to income, other than income from immovable property as defined in Paragraph 2 of Article 6, if the recipient of such income, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein, or performs in that other Contracting State independent personal services from a fixed base situated therein, and the right or property in respect of which the income is paid is effectively connected with such permanent establishment or fixed base. In such case the provisions of Article 7 or Article 14, as the case may be, shall apply.
3. Notwithstanding the provisions of paragraphs 1 and 2, items of income of a resident of a Contracting State not dealt with in the foregoing Articles of this Convention and arising in the other Contracting State may also be taxed in that other Contracting State.

第二十一条

二重課税
の排除の
方法

1. 日本国以外の国において納付される租税を日本国の租税から控除するに關する日本国の法令に従ふ。

- (a) 日本国の居住者がこの条約の規定に従つて南アフリカにおいて租税を課される所得を南アフリカにおいて取得する場合には、当該所得について納付される南アフリカの租税の額は、当該居住者に対する課

and to pensions, in respect of services rendered in connection with a business carried on by a Contracting State or a political subdivision or local authority thereof.

Article 19

A student or business apprentice who is present in a Contracting State solely for the purpose of his education or training and who is, or immediately before being so present was, a resident of the other Contracting State, shall be exempt from tax in the first-mentioned Contracting State on payments received from outside that first-mentioned Contracting State for the purposes of his maintenance, education or training.

Article 20

1. Items of income of a resident of a Contracting State, wherever arising, not dealt with in the foregoing Articles of this Convention shall be taxable only in that Contracting State.

2. The provisions of paragraph 1 shall not apply to income, other than income from immovable property as defined in Paragraph 2 of Article 6, if the recipient of such income, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein, or performs in that other Contracting State independent personal services from a fixed base situated therein, and the right or property in respect of which the income is paid is effectively connected with such permanent establishment or fixed base. In such case the provisions of Article 7 or Article 14, as the case may be, shall apply.
3. Notwithstanding the provisions of paragraphs 1 and 2, items of income of a resident of a Contracting State not dealt with in the foregoing Articles of this Convention and arising in the other Contracting State may also be taxed in that other Contracting State.

Article 21

られる日本国の租税の額から控除する。ただし、控除の額は、日本国との租税の額のうち当該所得に対応する部分を超えないものとする。

(b) 南アフリカにおいて取得される所得が、南アフリカの居住者である法人により、その議決権のある株式又はその発行済株式の少なくとも二十五パーセントを所有する日本国の居住者である法人に対して支払われる配当である場合には、日本国との租税からの控除を行うに当たり、当該配当を支払う法人によりその所得が納付される南アフリカの租税を考慮に入れるものとする。

2 南アフリカにおいては、二重課税は、次のとおり除去される。

南アフリカの居住者がこの条約の規定に従つて日本国において租税を課される所得について納付する日本国の租税の額は、南アフリカの租税法に従つて納付すべき租税の額から控除する。ただし、控除の額は、南アフリカの租税の総額のうち給所得に占める当該所得の割合に対応する額を超えないものとする。

条約の特典を享受することを主たる目的として居住者となつた者への適用制限無差別取扱い

第二十一条

この条約の所得に対する課税に関する規定は、この条約の特典を享受する主たる目的として一方の締約国の居住者になった者（個人を除く）については適用しない。

Article 22

The provisions of this Convention in respect of taxation on income shall not apply to a person (other than an individual) who has become a resident of a Contracting State in order primarily to enjoy the benefits of this Convention.

Article 23

一方の締約国の国民は、他方の締約国において居住者であるかに關し、同様の状況にある当該他方の締約国の国民に課されおり若しくは課されることがある租税若しくはそれに関連する要件以外の又は、これらよりも重い租税若しくは、これに関する要件を課されることがない。この規定は、第一の規定にかかるらず、締約国の居住者でない者にも、適用する。

1. Nationals of a Contracting State shall not be subjected in the other Contracting State to any taxation or any requirement connected therewith which is other or more burdensome than the taxation and connected requirements to which nationals of that other Contracting State in the same circumstances, in particular with respect to residence, are or may be subjected. This provision shall, notwithstanding the provisions of Article 1, also apply to persons who are not residents of one or both of the Contracting States.

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

〇〇〇

2. 一方の締約国のおかげで、他の締約国がその権限による恒久的施設に対する租税は、当該他の締約国において、同様の活動を行う当該他の締約国の企業に対して課される租税よりも不利に課せられなければならない。

3. ④の規定は、一方の締約国に対し、家族の状況又は家族を扶養するための負担を理由として当該の居住者に認める租税上の人的控除、救濟及び軽減を他方の締約国の居住者に認める限り義務付けるものと解してはならない。

4. 第九条1、第十二条又は第十三条の規定が適用される場合を除くほか、一方の締約国の企業が他方の締約国の居住者に支払った利息、使用料その他の支払金については、当該企業の課税対象利得の決定に当たって、当該一方の締約国の居住者に支払われたとした場合における条件と同様の条件で控除するものとする。

5. ④の条の規定は、第一条の規定にかかわらず、すべての種類の税に適用する。

第十四条

不服申立て及び両立の権限ある当局間の協議

1. いずれか一方の又は双方の締約国の措置によりて、当該当事者は、当該当事者が一方の又は双方の締約国の法令に定める救済手段とは別に、自己が居住者である締約国のある当局に対して又は当該当事者が前条1の規定の適用に関するものである場合には自己が国民である締約国のある当局に対して、申立てをすることができる。当該申立ては、④の規定に適合しない課税に係る当該措置の最初の通知の日から三年以内にしなければならない。

2. The taxation on a permanent establishment which an enterprise of a Contracting State has in the other Contracting State shall not be less favourably levied in that other Contracting State than the taxation levied on enterprises of that other Contracting State carrying on the same activities.

This provision shall not be construed as obliging a Contracting State to grant to residents of the other Contracting State any personal allowances, reliefs and reductions for taxation purposes on account of civil status or family responsibilities which it grants to its own residents.

3. Except where the provisions of paragraph 1 of Article 9, paragraph 8 of Article 11, or paragraph 7 of Article 12, apply, interest, royalties and other disbursements paid by an enterprise of a Contracting State to a resident of the other Contracting State shall, for the purpose of determining the taxable profits of such enterprise, be deductible under the same conditions as if they had been paid to a resident of the first-mentioned Contracting State.

4. Enterprises of a Contracting State, the capital of which is wholly or partly owned or controlled, directly or indirectly, by one or more residents of the other Contracting State, shall not be subjected in the first-mentioned Contracting State to any taxation or any requirement connected therewith which is other or more burdensome than the taxation and connected requirements to which other similar enterprises of the first-mentioned Contracting State are or may be subjected.

5. The provisions of this Article shall, notwithstanding the provisions of Article 2, apply to taxes of every kind and description.

Article 24

1. Where a person considers that the actions of one or both of the Contracting States result or will result for him in taxation not in accordance with the provisions of this Convention, he may, irrespective of the remedies provided by the domestic laws of those Contracting States, present his case to the competent authority of the Contracting State of which he is a resident or, if his case comes under paragraph 1 of Article 23, to that of the Contracting State of which he is a national. The case must be presented within three years from the first notification

of the action resulting in taxation not in accordance with the provisions of the Convention.

2. 権限のある当局は、1の申立てを正当と認めるが、満足すべき解決を与えることができない場合には、
　　の条約の規定に適合しない課税を回避するため、他方の締約国の権限のある当局との合意によりて当該
　　事案を解決するよう努める。成立したすべての合意は、両締約国の法令下のかかる期間制限にいかかわ
　　らず、実施されなければならぬ。

3. 両締約国の権限のある当局は、1の条約の解釈又は適用に関して生ずる困難又は疑義を合意によりて解
　　決するよう努める。両締約国のある当局は、また、1の条約に定めのない場合における「重課税」と
　　除去するため、相互に協議することができる。

4. 両締約国の権限のある当局は、2及び3の合意に達するため、直接相互に通信することができる。

情報の交換

第二十五条

1. 両締約国の権限のある当局は、1の条約若しくは他の条約が適用される租税に関する両締約国の法令
　　(当該法令に基づく課税が1の条約の規定に反しない場合に限る)を実施し又はこれらの租税に関する脱
　　税を防止するため必要な情報を交換する。情報の交換は、第一条の規定による制限を受けない。一方の締
　　約国が受領した情報は、当該一方の締約国がその法令に基づいて得た情報と同様に秘密として取り扱うもの
　　とし、1の条約が適用される租税の賦課若しくは徴収、これらの租税に関する執行若しくは訴追又は、
　　これらの租税に関する不服申立てについての決定に關する者又は当局(裁判所及び行政機関を含む)に対
　　してのみ開示することができる。これらの者又は当局は、当該情報をこれらの目的のためにのみ使用する
　　ことができる。これらの者又は当局は、当該情報を公開の法廷における審理又は司法上の決定において開
　　示する以外ができない。

Article 25

1. The competent authorities of the Contracting States shall endeavour to resolve by mutual agreement any difficulties or doubts arising as to the interpretation or application of the Convention. They may also consult together for the elimination of double taxation in cases not provided for in the Convention.

2. The competent authorities of the Contracting States shall communicate with each other directly for the purpose of reaching an agreement in the sense of the preceding paragraphs of this Article.

2. 1の規定は、いかなる場合にも、一方の締約国に対し、次のいとを行ふ義務を課するものと解してはな
　　い。

2. In no case shall the provisions of paragraph 1 be construed so as to impose on a Contracting State the

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一一〇一一

obligation:

- (a) 当該一方の締約国又は他方の締約国の法令及び行政上の慣行に抵触する行政上の措置をやめること。
to carry out administrative measures at variance with the laws and administrative practice of that or of the other Contracting State;
- (b) 当該一方の締約国又は他方の締約国の法令の下において又は行政の通常の運営において入手することができない情報を提供すること。
to supply information which is not obtainable under the laws or in the normal course of the administration of that or of the other Contracting State;
- (c) 営業上、事業上、商業上若しくは職業上の秘密若しくは取引の過程を明らかにするような情報又は公開する事が公の秩序に反することになる情報を提供すること。
to supply information which would disclose any trade, business, industrial, commercial or professional secret or trade process, or information, the disclosure of which would be contrary to Public policy (ordre public).

第116条

徵収共助
各締約国は、この条約に基づいて他方の締約国の認める租税の免除又は税率の軽減が、のよべな特典を受ける権利を有しない者によつて享受されるるゝものなどすべしとするだる、当該他方の締約国が課する租税を徴収するよう努める。その徴収を行へ締約国は、のよべにして徴収された金額につき当該他方の締約国に對して責任を負う。

2 1の規定は、いかなる場合にも、1の租税を徴収するよう努めるいづれの締約国に対しても、当該締約国の法令及び行政上の慣行に抵触し又は公の秩序に反することになる行政上の措置をとる義務を課するものと解し得はなんざ。

外交官又 は領事官 の特權と の関係

効力の發 生

この条約のいかなる規定も、国際法の一般原則又は特別の協定に基づく外交使節団又は領事機関の構成員の租税上の特權に影響を及ぼすものではない。

第117条

Nothing in this Convention shall affect the fiscal privileges of members of diplomatic missions or consular posts under the general rules of international law or under the provisions of special agreements.

Article 27

1. この条約は、両締約国その国内法上の手続に従つて承認されなければならない。この条約は、その承認を通知する公文の交換の日の後三十日目の日に効力を生ずる。

Article 28

1. This Convention shall be approved in accordance with the legal procedures of each of the Contracting States, and shall enter into force on the thirtieth day after the date of exchange of notes indicating such approval.

2. この条約は、次のものについて適用する。

- (a) 日本国においては、

(i) 源泉徴収される租税に関しては、この条約が効力を生ずる年の翌年の1月1日以後に租税を課される額

(ii) 源泉徴収される租税に関しては、この条約が効力を生ずる年の翌年の1月1日以後に租税を課される額

(iii) その他の税に関する所得に対する租税に関しては、この条約が効力を生ずる年の翌年の1月1日以後に開始する各課税年度の所得

(iv) 南アフリカにおいては、この条約が効力を生ずる年の翌年の1月1日以後に開始する各課税年度の税

(v) 南アフリカにおいては、この条約が効力を生ずる日の属する年の翌年の1月1日以後に開始する各賦課年度の税

- (b) 南アフリカにおいては、この条約が効力を生ずる日の属する年の翌年の1月1日以後に開始する各賦課年度の税

有効期間

This Convention shall continue in effect indefinitely but either Contracting State may, on or before the thirtieth day of June of any calendar Year beginning after the expiration of a period of five Years from the date of its entry into force, give to the other Contracting State, through the diplomatic channel, written notice of termination and, in such event, the Convention shall cease to have effect:

(a) in Japan,

(i) with respect to taxes withheld at source, for amounts taxable on or after the first day of January of the calendar year next following that in which the notice of termination is given;

(ii) with respect to taxes on income which are

第二十九条

この条約は、無期限に効力を有する。ただし、いずれの一方の締約国も、この条約の効力発生の日から五年の期間が満了した後に開始する各暦年の六月三十日以前に、外交上の経路を通じて他方の締約国に対し書面による終了の通告を行つたのが認められる。この場合には、この条約は、次のものについて効力を失う。

Article 29
in respect of taxes for any year of assessment beginning on or after the first day of January next following the date upon which the Convention enters into force.

- (a) 日本国においては、
- (i) 源泉徴収される租税に関しては、終了の通告が行われた年の翌年の1月1日以後に租税を課される額
- (ii) 源泉徴収されない所得に対する租税に関しては、終了の通告が行われた年の翌年の1月1日以後に

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一一〇一四

開始する各課税年度の所得

not withheld at source, as regards income for any taxable year beginning on or after the first day of January of the calendar year next following that in which the notice of termination is given;

(iii) その他の税に関しては、終了の通告が行われた年の翌年の一月一日以後に開始する各課税年度の税

(b) in South Africa,
in respect of taxes for any year of assessment beginning after the end of the calendar year in which such notice is given.

IN WITNESS WHEREOF the undersigned, being duly authorized thereto by their respective Governments, have signed this Convention.

DONE in duplicate at Cape Town this seventh day of March, 1997, in the English language.

日本国政府のために

小西芳三

For the Government of
Japan:

Yoshizo Konishi
G. Marcus

南アフリカ共和国政府のために

G・マーカス

末文

所得に対する租税に関する「重課税の回避及び脱税の防止のための日本国政府と南アフリカ共和国政府との間の条約（以下「条約」といふべく）の署名に当たり、下名は、条約の不可分の一部を成す次の規定を協定した。

1.

条約第八条に關し、船舶又は航空機を国际運輸に運用すべしとして取得する利得には、次に掲げた利得が含まれることが了解される。ただし、当該利得が同条の規定の適用を受ける利得に付随するものである場合に限る。

(a) 裸用船による船舶又は航空機の賃貸から取得する利得

(b) 国際運輸に使用されるコンテナー（コンテナーの運送のためのトレーラー及び関連設備を含む。）の使用、保管又は賃貸から取得する利得

2. 条約第二十一条に關し、一方の締約国において、その者の主要な事業を行つたために必要とみなされる固定的な施設（事務所又は工場を含む。）において實質的な事業活動を行つてゐない者は、条約の特典を享受することを主たる目的として当該一方の締約国の居住者となつたものとみなす。

1. With reference to Article 8 of the Convention, it is understood that profits from the operation of ships or aircraft in international traffic shall include:
 - (a) profits derived from the rental on a bare boat basis of ships or aircraft; and
 - (b) profits derived from the use, maintenance or rental of containers (including trailers and related equipment for the transport of containers) used in international traffic; if such profits are incidental to profits to which the provisions of paragraph 1 of that Article apply.
2. With reference to Article 22 of the Convention, a person shall be regarded as having become a resident of a Contracting State primarily to enjoy the benefits of the Convention if such person is not engaged in substantive business operations in a fixed facility, including an office or factory, in that Contracting State which is considered as necessary for conducting its principal business.

以上の証據として、下名は、各自の政府から正當に委任を受けたの議定書に署名した。

一千九百九十七年三月七日にケープ・タウンで、英語により本書二通を作成した。

IN WITNESS WHEREOF the undersigned, being duly authorized thereto by their respective Governments, have signed this Protocol.

DONE in duplicate at Cape Town this seventh day of March, 1997, in the English language.

南アフリカ共和国との租税（所得）条約

一一一六

日本国政府のために

小西芳三

南アフリカ共和国政府のために

G・マーカス

For the Government of
Japan:
Yoshizo Konishi

For the Government of the
Republic of South Africa:
G. Marcus

(参考)

この条約は、我が国と南アフリカ共和国との間で所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のために締結されたものである。